

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人陽和福祉会	代表者	福井 雅子	法人・事業所の 特徴	通い、訪問、宿泊の3つのサービスを組み合わせる形態で居宅サービス計画を作成し、利用者の日常生活を支援し孤独感の解消や心身機能の維持向上並びに家族の負担軽減を図る。また、レクリエーションや各種イベントを行う事によりどんぐりの森ならではの特色ある事業運営に努める。
事業所名	どんぐりの森	管理者	高木貴史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	1人	2人	1人	2人	5人	人	13人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	シフト制の勤務のため、申し送りノート等記録物を中心に情報共有がされているが、口頭による申し送りも心がけ、利用者へ同じサービスが提供できるように努める。	『新規利用者情報シート』を作成し、事前に確認把握することはできたが、利用開始後に追加記入し更新することが不十分であった。口頭による情報共有は、その場にいる職員のみになりがちで他職員に伝わらない事が多かった。その日得た情報、起こった事を記録に残し、必要に応じて口頭で伝達し合う事の徹底がされていない。	口頭での情報伝達に課題がある事が、大きな問題として認知されていると思う。可能な限り利用者への最善の援助ができるように努力されていることが判断できる。情報共有については、頑張っているが、まだ不十分のよう。整理整頓により必要な情報へのアクセスを容易にすることは、共有の前提で、そのための努力は積み上げられていると思われる。自己評価であまりできていないと答えた箇所については、できていると評価した職員からのノウハウを共有できるシステムを構築してもらいたい。	勤務交代時に申し送りができる時間(夜勤から日勤は9時頃、日勤から夜勤は16時30分頃)を作りノートと口頭で伝えていく。申し送りが行えたら、申し送りノートに確認のチェックを入れるようにして継続したケアができるようにしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	整理整頓は、棚やケースを活用して行い、書類も項目ごとにまとめ、不要なものは処分をしている。今後も要不要を見極め整理整頓に努めていく。	記録物をファイリングすることで区別が行えている。申し送りノートなどが整理されてきており、出勤日の間隔があいても読みやすくなっている。事務机の書類などの片付けができていない。	きれいで臭いがない。明るい。整理整頓、清潔、清掃はしつらえの基本。入りやすく、居心地がいい施設とするためと思うが、花壇、植栽に丁寧に手をかけているのが嬉しい。不要品の定期的な廃棄、収納倉庫の設置、増設が必要ではないか。スピーチロックの防止は簡単ではないと思うが、全体の雰囲気や心の安定につながると思うので周知に心掛けてほしい。	整理整頓は意識して行えている為、今後も要不要を見極め整理整頓に努めていく。スピーチロックなどの拘束行為の防止は、施設教育委員会の研修に参加する事で意識を高め、利用者ケアの向上に努めていく。
C. 事業所と地域のかかわり	日常的に気軽に足を運んでいただけるようオレンジプラスカフェなどを充実させていく。	事業所としての行事レクや外出レクの実施、施設全体イベントへの参加ができており、外部ボランティアの来訪により利用者楽しんで頂けた。職員自身が地域の機関や団体との関わりがなく事業所として交流ができず、おれんじプラスカフェを通じた交流もありできなかった。	地域の方も参加できるイベントが開催されておりとても良いと思う。運営推進会議に利用者が参加しているのが素晴らしい。地域老人会でカフェを利用、施設内を見学してもらった。また、地域の高齢者対応情報交換会へ職員を派遣してもいい有益な取り組みができている。家族や地域の方々が気軽に入場して寛げるスペースとして花壇や植栽、喫茶室が開放されている。地域との結びつき向上に資すると思う。(スタッフと地域との関わりをバックアップする組織的関与が必要ではないか)。	事業所の利用者のみに意識が集中していたが、今後は、地域の集会に参加する事で地域の実情を把握し、情報収集をしていく。中学生の職場体験は、年1回受け入れており、今後も継続して受け入れていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	地域の行事やイベントについて情報収集をし、参加できるよう努めていく。	利用者・家族の要望等を把握し、サービス、支援の変更や追加などスムーズに対応できたが、事業所内での対応にとどまり地域の社会資源の活用に至らなかった。地域イベントに参加することができたが一部の利用者に限られた。	レクや外出など企画が多く、利用者も楽しまれていると思う。今後も楽しみなひとときが持てるよう継続してもらいたい。事業所として利用者の周囲におられる地域の方々と、どのような形でつながりを持つとしているのか判断しづらい。事業所をより積極的に地域に売り込んでいく活動が必要ではないか。紹介チラシを広く配布する、HPの充実を図る等。事業所→地域へ、地域→事業所へ、双方向に交流が深まる事を期待します。	事業所の活動を知ってもらうため、ラインやSNS等のデジタルコンテンツを利用して、今後も継続して情報発信していく。近隣地域の方に事業所の活動を知ってもらうため、チラシを配布していく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	小規模多機能の様子を知っていただけるように季刊誌やインスタグラム、ホームページを活用していく。	事業所からの情報提供は行えたが、運営推進会議や利用者・家族からの意見要望を具体的に運営に反映することはできなかった。	施設内の行事などはスライドで分かりやすい。「地域で心配である方」の情報が得られているかや得られているなら、どのようにして入手しているのかや推進会議には、どのような形で提起されているのかや会議に求められている役割はなんであるのかを一度よく議論してみたらどうか。必要であれば会議の運用、あり方を修正することもあるのでは？ 運営推進会議のメンバーが連携して、地域の高齢者対応の在り方を深掘りできると良い。	運営推進会議で施設内を見学してもらう等し、事業所の活動をより分かりやすく情報提供し、会議での意見を事業運営に繋げていくよう努める。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続き利用者が安全に避難できるよう避難経路の確認やマニュアルの作成などを教育・防災委員会と連携しながら行っていく。	施設の防災委員会に出席し、年2回の避難訓練に参加し、BCPの見直しを行った。	避難訓練の様子を見て貰い、利用者の実情を知ってもらうのも一案かと思います。事業者と利用者の防災・安全確保計画の重要性は改めて言うまでもないが、その詳細を家族・地域を含めて周知することも重要。地域の防災関係者との協議をしておく必要がある。自治体等との共同訓練・合同勉強会などがあったら良いのでは。	施設の防災委員会における防災訓練に参加しており、引き続き行っていく。地域の防災訓練の参加は施設の防災員会と連携していく。